



さあ、大磯で君の物語をはじめよう

# **大磯町新たな観光の核づくり 総括 【平成 25 年度～令和2年度】**

**令和3年3月**

**大磯町新たな観光の核づくり推進本部**



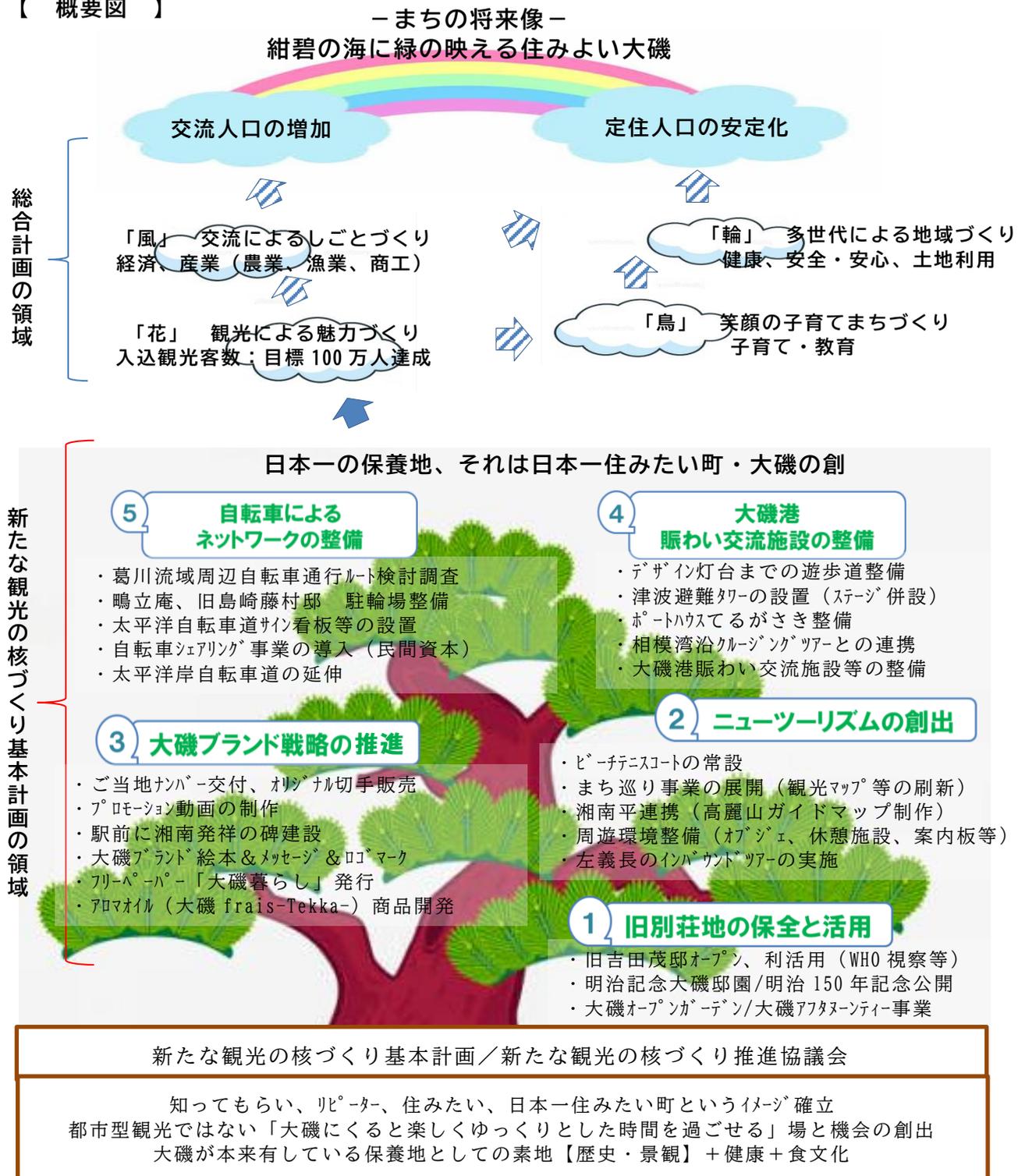
## 目 次

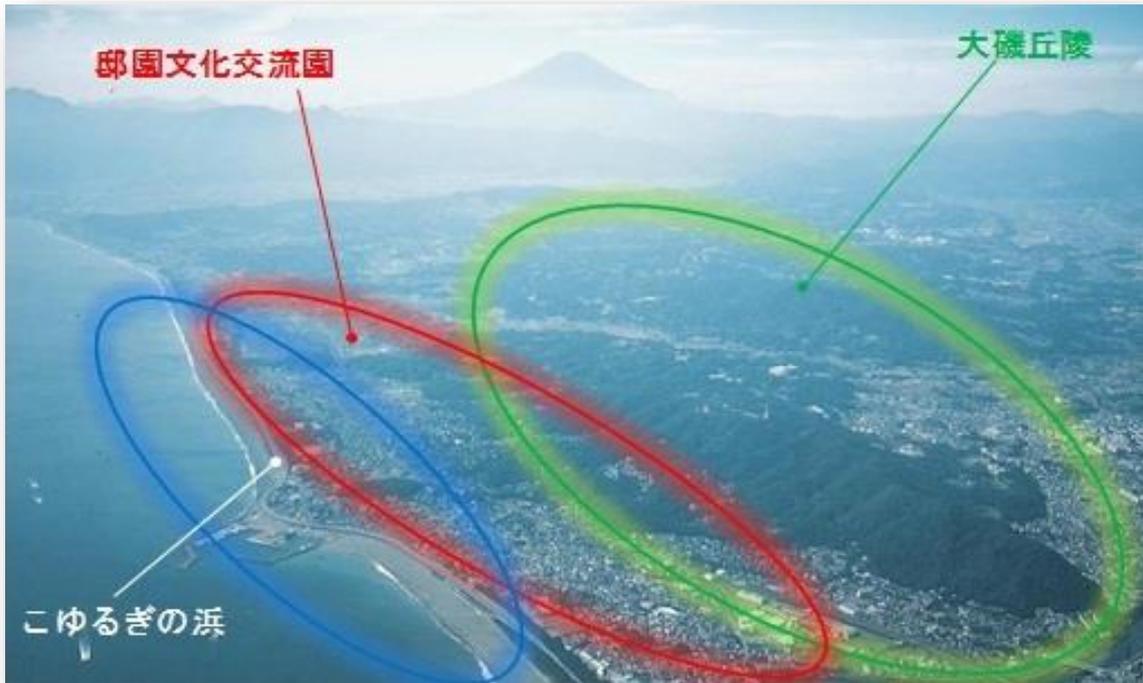
新たな観光の核づくりの取組み	・・・・・・・・	4
事業1 旧別荘地の保全と活用	・・・・・・・・	6
事業2 ニューツーリズムの創出	・・・・・・・・	7
事業3 大磯ブランド戦略の推進	・・・・・・・・	8
事業4 大磯港賑わい交流施設の整備	・・・	9
事業5 自転車によるネットワークの整備	・・・・・・・・	10
『大磯らしい潤いづくり』に向けて	・・・・・・・・	11

## ◆新たな観光の核づくりの取組み

平成 25 年度から令和 2 年度までの 8 年間にわたり「神奈川県新たな観光の核づくり」の取組みとして、「大磯町新たな観光の核づくり基本計画」を策定し、県による情報発信や財政面の支援を受けながら、大磯町新たな観光の核づくり推進協議会を中心に、観光の「核」となる拠点や周遊環境の整備等を進めてきました。

### 【 概要図 】



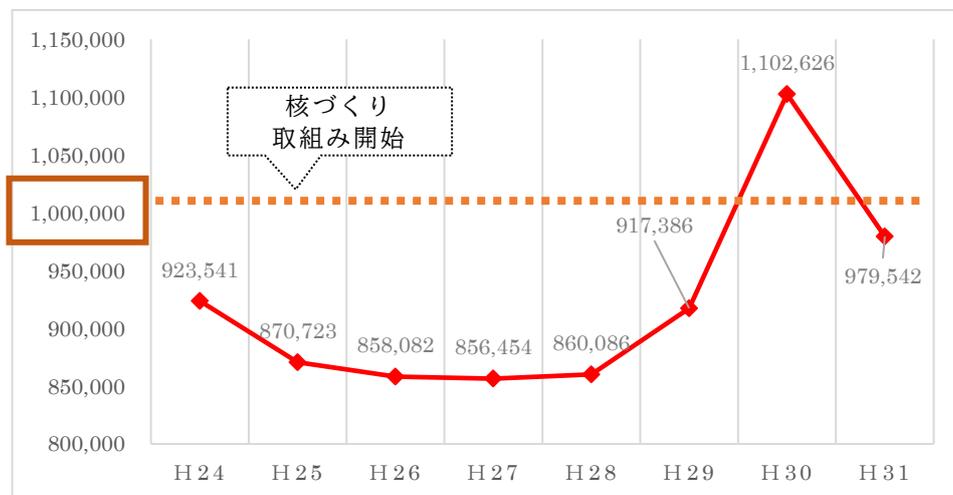


図：こゆるぎの浜／邸園文化交流園／大磯丘陵

【 主な取組みの成果 】

新たな観光の核づくりに取り組む前の平成 24 年と比較すると入込客数は、年々、増加傾向にあります。

第四次総合計画後期基本計画及び新たな観光の核づくり基本計画で掲げる目標「観光入込客数 100 万人」は、平成 30 年に達成しました。



図：観光入込客数の推移（各年）

## 事業1. 旧別荘地の保全と活用

### <大磯町新たな観光の核づくり基本計画における事業の概要>

- ① 旧別荘地をはじめとする邸園文化交流園の利活用・活性化の取組みの一つである「大磯オープンガーデン」の充実を図る。また、同時開催の町内飲食店と連携した「大磯アフタヌーン」の推進によって、来訪者がより楽しめる環境づくりを促進する。
- ② 再建した旧吉田茂邸を、体験・学習・交流する施設として活用する。何時訪れても、新鮮で魅力的な場となるよう、企画展の開催、邸園の利活用、関連施設との連携ツアーなどについて、継続した連携に努める。また、近隣に立地する大磯プリンスホテルとのタイアップにより、相乗効果を高めるよう連携を図る。
- ③ 小湊海岸松林地区を対象に、都市計画制度の地域地区（風致地区、特別緑地保全地区、特別用途地区）の重複指定によって、良好な景観と緑地を維持しつつ、歴史的建造物の保全と活用を図る。
- ④ 貴重な歴史的邸園資産が集積する一体エリアの保存・活用に向け、国が主体となって整備する「明治記念大磯邸園」について、連携を図る。

### <実施状況>

平成 25 年度	官民連携事業の検討、地域地区の検討と地元調整 歴史的建造物の公開条件等の検討、旧吉田茂邸再建の実施設計
平成 26 年度	大磯オープンガーデンの実施及び受入態勢の強化、旧吉田茂邸再建工事 風致地区等の指定、旧吉田茂邸地区庭園ガイド
平成 27 年度	大磯オープンガーデン及び大磯アフタヌーンの実施及び受入態勢の強化 旧吉田茂邸再建工事
平成 28 年度	大磯オープンガーデン及び大磯アフタヌーンの実施、旧吉田茂邸公開へ向けた整備 大磯町郷土資料館リニューアル及び中庭整備
平成 29 年度	旧吉田茂邸オープニングイベント等の開催と公開、旧吉田茂邸の利活用（WHO 視察 / 外務大臣・ミクロネシア連邦大統領懇談）、おおいそ野外アート2017の開催、大磯オープンガーデン及び大磯アフタヌーンの実施
平成 30 年度	明治 150 年記念イベントの開催、大磯オープンガーデン及び大磯アフタヌーンの実施推進
令和元年度	明治記念大磯邸園の整備、旧吉田茂邸の利用促進（例）産業能率大学との連携事業による動画配信、大磯城山公園利用促進、大磯オープンガーデン及び大磯アフタヌーンの実施推進、明治記念大磯邸園及びオープンガーデン等のガイドツアー開催
令和 2 年度	明治記念大磯邸園の整備と一部開園 ※令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業の中止等あり



## 事業2. ニューリズムの創出

### <大磯町新たな観光の核づくり基本計画における事業の概要>

- ① 3つの舞台で地域資源を活用し、「交流」・「学習」・「健康」・「食」・「文化」を楽しむ体験型プログラム(グリーンツーリズム・ヘルスツーリズム・スポーツツーリズムなど)を創出する。
- ② 町民主体によるイベント(大磯市・大磯オープンガーデン・大磯うつわの日・おおいそ野外アートなど)の連携やタイアップ事業の連動などにより、更なる周遊性の創出を図る。
- ③ 観光環境等の整備、旧吉田茂邸の開館、まちあるきイベントの増加、自転車シェアリングの展開等を踏まえ、町内の周遊環境向上のため、設置から30年近くが経過した「歴史と味の散歩路」の案内板及びガイドマップの更新を行う。また、主なルート上を中心に公衆トイレ等の整備・改修を進める。
- ④ 通い型の田舎暮らしの仕掛けづくり、未利用の農水産物資源の活用
  - ・港を出入口にした「相模湾沿岸のクルージング」商品の開発、宿泊施設、飲食施設の検討
  - ・大磯ロングビーチから大磯運動公園までのエリアを中心としたスポーツタウン化事業の検討

### <実施状況>

平成25年度	地域資源等の調査、公共トイレ協力店に6店舗を登録
平成26年度	公衆トイレ等の整備・協力店の追加 大磯の景観再発見プロジェクト、まち歩きウォークラリー
平成27年度	ビーチスポーツの実施、ビーチテニスコートの常設、まちあるきプログラムの実施(サンデーアートウォーク・里山ウォークラリー・大磯今昔写真)、観光環境整備(オブジェ制作展示・周辺環境整備・観光トイレ整備)、伝統行事の継承と活用、英語パンフレット作成
平成28年度	サンデーアートウォークの推進、左義長の外国人ツアーの開催、ロートアイアン看板制作(旧木下家別邸)、ハイカー用仮設トイレ設置、「オブジェ」ウォークラリー&大磯駅浮世絵パネル設置、今昔写真アプリイベント、里山ウォークラリー&ふれあい農産物まつり、大磯まち歩きマップの作成、嶋立庵指定管理者の導入、大学生によるモデルコースの作成
平成29年度	アートイベントの開催(第7回大磯うつわの日 / おおいそ野外アート2017)、左義長の継承と活用(外国人体験ツアー)、相模湾沿岸のクルージングツアー、「オブジェ」ウォークラリー2017、里山ウォークラリー&ふれあい農産物まつり
平成30年度	かながわ海洋ツーリズムとの連携、おおいそめぐり2018スタンプラリーの開催、観光環境等の整備:観光案内板等の整備及び観光マップ作成の検討
令和元年度	観光案内板(観光標柱)の整備、観光マップの更新、西久保地区休憩施設(公共トイレ)整備、大磯地曳網親子体験教室の開催、インバウンドツアーの開催、かながわ海洋ツーリズムとの連携、おおいそめぐり2019スタンプラリー
令和2年度	観光ホームページリニューアル、ホームページによる湘南平・県立大磯城山公園へのアクセス情報事業 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業の中止等あり



### 事業3. 大磯ブランド戦略の推進

#### <大磯町新たな観光の核づくり基本計画における事業の概要>

- ① 「大磯ブランド戦略プラン」に基づき、邸園文化や恵まれた自然等の「大磯独特の地域資源」を町民自らが見直し、ここに住む豊かさを再認識しながら「大磯町を楽しむ」ことから始め、その暮らしの豊かさを町外の人々と分かち合いながら、観光・交流促進を進め、「大磯町のファンになる人」の増加を目指す。その取組みの一環として、町の魅力を「見える化・デザイン化」した「大磯町をつくる9つの価値観」や、「ブランドメッセージ&ロゴ」を「町の観光のプロモーションツール」として有効活用する。また、町の豊かさ・楽しさを分かりやすく伝えるための「媒体」を制作し、その媒体を通じて、町民が町の魅力を再発見し「町に誇りを持つこと」や、町外者が大磯町に興味を持つ機会を提供する。
- ② 「観光による町の魅力づくり」を通して、来訪者が町に興味を持ち、何度も来訪するリピーターとなって、地元住民と交流する中でファンとなり、やがては大磯町で創業してみたいという「交流による仕事づくり」に繋げる。  
観光を「きっかけ」として、町内に「新たな風」を起こし、地域産業を活性化させる取組みを、町内関係機関と連携し構築する。

#### <実施状況>

平成 25 年度	アンケート等の基礎調査
平成 26 年度	「おもてなしの心」育成講座等の実施、大磯新聞の発信、ご当地ナンバープレートの交付、利ジナル切手シートの発行、「あおみ」着ぐるみ作成
平成 27 年度	まちづくりフォーラムの開催、伝統行事の継承と活用、移住プロモーション動画の作成、PR 動画の作成、湘南発祥の碑建設
平成 28 年度	ブランドチラシの作成及びメッセージの募集、「大磯暮らし」vol.1 の作成、まちづくりフォーラム開催、新たな観光の核づくり構想認定地域のPR物品の作成
平成 29 年度	ブランド絵本&「大磯暮らし」vol.2 の作成、まちづくりフォーラムの開催、「おもてなしの心」育成講座の実施、大学生による観光PRグッズの作成、商工業者等支援のに向けた連携、大磯御船祭の船の修繕に対する支援、相模国府祭文化財調査
平成 30 年度	「大磯暮らし」vol.3 の作成、明治150年事業に係る大磯土産品開発、相模国府祭文化財調査、大学生によるモニタリング調査、アロマイル（大磯 frais-Tekka-）商品開発
令和元年度	「大磯暮らし」vol.4 の作成、大磯産農産物のPR活動の展開、アロマイル商品展開に向けた支援、大学生による大磯地域の観光スポット・イベントの紹介記事（ブログ）の作成、相模国府祭調査報告書の刊行
令和2年度	※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業の中止等あり



## 事業4. 大磯港賑わい交流施設の整備

### <大磯町新たな観光の核づくり基本計画における事業の概要>

- ① 大磯港やその周辺地域一帯を「みなとオアシス」とし、人や情報の交流や賑わいの創出を図るため、大磯港にその拠点となる「賑わい交流施設」を整備する。  
「賑わい交流施設」には、地域交流、地域農水産物などの販売、飲食提供といった機能を設け、指定管理者による管理運営を通じて、町内外の来訪者による交流や、さらには町内周遊の拠点として活用し、地域の活性化を図る。
- ② 「大磯駅前広場」を「歩行者に優しい安全安心な駅前広場」、「大磯らしい風格ある町の玄関口」、「憩いと交流とにぎわいあふれる駅前広場」をコンセプトとする。「大磯駅周辺安全安心・にぎわい創出事業」との連携を図り、電車で大磯を訪れた人々が、駅から大磯港などを歩き楽しみながら、快適に周遊できる空間を創出する。
- ③ 圏央道・さがみ縦貫道路の開通や国道134号線の4車線化に伴い、首都圏からのアクセスが向上したことから、大磯港やその周辺地域は、今後も多くの来訪者が期待できるエリアとなっている。民間事業者や「ポートハウステるがさき」の指定管理者との連携により、北浜海岸の広大な砂浜を活かしたビーチスポーツ、釣り、サーフィン、磯遊び、水泳大会など、様々な海辺のソフト事業の提供を図る。また、「津波避難ター」の平時の有効活用によって、通年での北浜海岸の利用の創出を図る。

### <実施状況>

平成25年度	整備内容の検討、デザイン灯台までの遊歩道整備
平成26年度	賑わい交流施設整備の方向性検討、ポートハウステるがさき整備
平成27年度	賑わい交流施設整備の方向性決定、ポートハウステるがさき運営
平成28年度	大磯港みなとオアシス整備計画基本構想の策定、みなとまちづくり講演会の開催、ポートハウステるがさき指定管理者の選定
平成29年度	大磯港賑わい創出施設指定管理者の募集、みなとまちづくり講演会の開催、ポートハウステるがさき民間事業者による運営、「空き家」「空き店舗」の利活用による地域の活性化、大磯駅周辺安全安心・にぎわい創出計画（案）の策定
平成30年度	大磯港「みなとオアシス」の推進、大磯港賑わい創出施設指定管理者の選定、大磯港賑わい交流施設的设计、「空き家」「空き店舗」の利活用による地域の活性化
令和元年度	大磯港賑わい交流施設の整備着手、港湾管理事務所の改修・機能の拡充、漁業体験や和風づくり教室、星空の観察会等の開催、大磯駅周辺安全安心・にぎわい創出事業の推進、「空き家」「空き店舗」の利活用による地域の活性化、大磯市の開催
令和2年度	大磯港「みなとオアシス」の登録、大磯港賑わい交流施設の完成、大磯港賑わい交流施設の開設準備、大磯港ビクターパースの整備 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業の中止等あり



OISO  
CONNECT



## 事業5. 自転車によるネットワークの整備

### <大磯町新たな観光の核づくり基本計画における事業の概要>

① 町内の自転車通行環境の整備箇所や整備手法を具体的に示す「大磯町内自転車交通ネットワーク計画」に基づき、計画的な自転車通行環境の整備を図る。

国による太平洋岸自転車道の延伸計画や国道1号における自転車通行環境整備と連携し、町内の自転車交通ネットワークの整備を効果的、効率的に推進し、町内の自転車による周遊性の向上を図る。

② 葛川流域沿いに位置する3町（大磯町・二宮町・中井町）を結ぶ広域的な観点からの自転車走行環境整備の検討を進め、安全で快適な周遊性の向上を図る。

③ 町内の周遊性向上に向け、民間事業者との連携により、「自転車シェアリング事業」の推進を図る。

目的・効果としては、①町外からの来訪者の移動手段、②通勤・通学・日常生活など町民の方の移動手段、③店舗等に駐輪スペースを設けることによる誘客手段、④公共交通機能の補完、⑤健康増進の補完・ヘルスマネジメントなどが挙げられる。

自転車シェアリング事業を町内及び近隣エリアに広げることによって、更なる利便性の向上やそこから派生した「まちめぐりの楽しさ」を増大させる観光事業の展開を目指す。

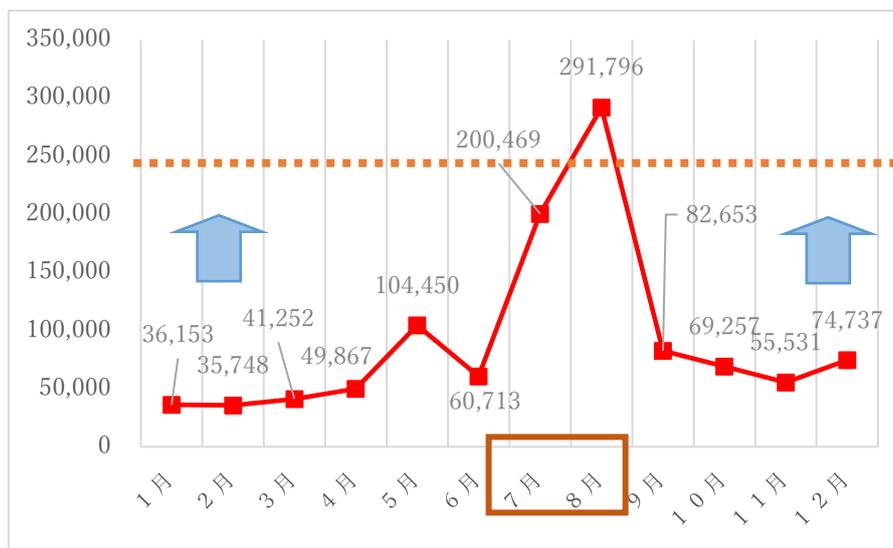
### <実施状況>

平成26年度	大磯町・二宮町・中井町における自転車通行空間検討会の開催（葛川流域周辺自転車交通ルートの検討調査開始）、「自転車ネットワーク計画」の策定、ポートハウスてらさがき整備
平成27年度	シェアサイクル事業の拡充、旧島崎藤村邸ポケットパーク整備
平成28年度	太平洋岸自転車道のサイン看板等の設置、鴨立庵周辺環境整備
平成29年度	大磯町内自転車ネットワーク計画の策定、自転車シェアリング事業の導入、太平洋岸自転車道の延伸、葛川流域周辺自転車通行ルートの検討調査
平成30年度	大磯町内自転車ネットワーク計画の推進、自転車シェアリング事業の推進、太平洋岸自転車道の延伸、葛川流域周辺自転車通行ルートの検討調査
令和元年度	太平洋岸自転車道の延伸、太平洋岸自転車道の路面標示等の整備、自転車シェアリング事業の拡充、湘南地域シェアサイクル広域周遊観光実証実験事業
令和2年度	太平洋岸自転車道の延伸（葛川渡河部（国道1号線までの暫定的な自転車道ネットワーク化））、自転車シェアリング事業の展開、湘南地域シェアサイクル広域周遊観光実証実験事業 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業の中止等あり



## ◆「大磯らしい潤いづくり」に向けて

新たな観光の核づくりの取組みにより、入込客数は目標を達成している状況ですが、来訪者の月別の推移をみると、主に夏季における海水浴場及び町内宿泊施設の誘客力に支えられている状況であり、夏季とその他の季節では誘客力の差が大きく開いている状況です。



図：観光入込客数の推移（H30 月別）

また、住民や事業を営む方、来訪者や有識者の方から、次のような「声」が寄せられています。

- 「お金をたくさん使うつもりで来たが使う機会がない、残念」（来訪者）
- 「夏季以外（春・秋・冬）にも誘客がないと生活維持に不安」（商業者）
- 「核をつなぎ面とするストーリー、仕掛けが必要」（県核づくり有識者）
- 「ノーベル賞受賞者や著名な作家も好む静かな住環境を守って」（住民）

そこで、多様な課題に柔軟に対応するため、町全体を俯瞰した中で、これまでの「新たな観光の核づくり」の「価値」を高める取組みを基盤に、町内事業者との連携の深化や住民の生活環境とのバランスを見据えながら、点である「核」をつないで魅力ある「面」としていくとともに、滞在時間の延長や客単価の上昇等に寄与する「経済（食べる・買う・泊まる）」の視点を加え、民間資本の参画を促すことで、来訪地としての競争力を保ちつつ、持続可能な発展をめざします。

この「価値」と「経済」という両輪の視点へとステップアップさせることで、「大磯らしい自然や歴史・文化が香る賑わい」、すなわち「大磯らしい潤い」につなげることを目的に、新たな観光の核づくりを引き継ぐ、「大磯らしい潤いづくり協議会」を設置するとともに、中長期的な経済循環の形成に向けた基本指針として「大磯らしい潤いづくり計画」を策定し、本協議会における事業を継承し、発展的に取組みを進めます。